

＼ 気をつけよう！ ＼

高濃度のセシウムが含まれる

ろ ぼう 「路傍の土」



「路傍の土」ってなあに？

雨や風によって寄せ集まった砂や泥を「路傍の土」と呼んでいます。
この土には、福島第一原発事故で降り注いだ放射性物質が多く含まれています。
地域の汚染状況によって、放射性物質の濃度が異なります。

「路傍の土」の濃縮メカニズムは？

福島第一原発事故後、コンクリートやアスファルトに降り注いだ放射性物質（主にセシウム）が、雨や風で寄せ集まり、流れずに溜まったままの状態です。時間経過と共にさらに堆積し、高濃度になりました。草地や土の場所と違って地下にセシウムが浸透せず、地表面に溜まっていることも特徴です。

「路傍の土」のセシウム濃度を分析すると、汚染状況重点調査地域に指定されていない東京都江東区や江戸川区、葛飾区でも 9 万 Bq/kg や、24 万 Bq/kg、福島県内においては 100 万 Bq/kg を超えるセシウムが検出されています。広い場所から集まるほど、そして、吹きだまりや水溜まりなど、うまく寄せ集まる条件が重なれば重なるほど、より高濃度になっていきます。

参考

国（環境省）は、一般ゴミや下水汚泥を焼却処理する際に出る焼却灰の処理基準を設けており、8000Bq/kg を超える廃棄物については、放射性物質汚染対処特措法に基づき、指定廃棄物として国が処理することとなっています。「路傍の土」は、これらの指定廃棄物と同程度、もしくは高濃度のケースも少なくありませんが、飛散防止策を講じずに、路上に放置しているのが現状です。

裏面には気をつけなければいけない
場所や、どうすれば良いかが書いて
あるよ。必ず読んでね！



TOKYO UNION
PROTECT CHILDREN FROM RADIATION

「路傍の土」は、どんな場所にあるの？

雨が溜まったままの水たまり(くぼみ)や、吹きだまりに集まります。広い面積から集まるほど、濃度が高くなる傾向にあります。



駐車場の端



駐車場の出入り口付近



こんなところは注意が必要だね



雨どいなど

学校やマンションなどの屋上にもあるんだって



歩道の端



路肩

身近に被ばくの危険！？

通学路・遊び場・住宅地など、子どもの行動範囲内の至る所に、高濃度セシウムを含んだ「路傍の土」があります。触る・踏む・転ぶ・転がったボールに付着する・手についたものが口に入る・風で飛んだ砂ぼこりを吸い込む等、その危険性を否定できません。



どうすればいいの？

1. 触らない、近づかない。
2. 量の少ない場所や排水溝に近い場所は、雨天時や雨上がりの水を含んでいるうちに掃除をする(必ず大人がやりましょう)。集めた「路傍の土」は土のう袋に入れて、区や市の管轄に連絡し回収してもらう。※水分を含むうちに掃除する理由は、「路傍の土」に含まれているセシウムが空気中に再飛散するのを防ぐためです。
3. 自治体がロードスーパーで清掃する(それぞれの自治体へ対応を呼びかけましょう)。

自治体は、回収した「路傍の土」を厳重に管理の上、適切な処分をおこなってください。

子どもは近づかない



触らない



ロードスーパー(歩道用)



園長先生・校長先生へのお願い

「路傍の土」は、通園・通学路にもなっている路地に多く見られます。これを避けるということは子どもたちが車道の真ん中を通行することになり、別の危険が伴います。今一度、通園・通学路を見回り、「路傍の土」を子どもたちから遠ざけるよう、安全対策をお願いいたします。